



科学研究費補助金 特別推進研究 平成24 - 28年度

神経ダイナミクスから社会的相互作用へ至る  
過程の理解と構築による構成的発達科学

平成 27 年 6 月 12 日

各報道機関担当記者 殿

## 自閉症スペクトラム障害児と両親の心理的状态は連動している

金沢大学子どものこころの発達研究センター 長谷川千秋博士研究員、菊知充教授らの研究グループは、自閉症スペクトラム障害(※1)と診断されている 17 人の幼児と両親を、およそ 2 年間にわたり追跡調査し、幼児の社会性の経年変化と、両親の心理的状态の変化を国際的に標準的な質問紙法を用いて調査し、その関連性を調べました。

その結果、時間の経過とともに子どもの社会性が改善している場合に、両親の共感指数(※2)が向上するという関連性が判明しました。一方で、子どもの社会性が低下している場合には、両親の共感指数が低下していることも示されました。**本研究は世界で初めて、親子(家族)の状態は連動していることを、国際的に標準的な方法を用いて、学術的に明らかにしました。**

**今後、自閉症スペクトラム障害児への支援を発展させていく際に、親子(家族)の包括的な理解が必要であることを示唆しています。**

本研究は、Psychiatry Research (米国科学誌) オンライン版に 6 月 11 日に掲載され、後日紙媒体にて出版される予定です。(新聞掲載は 6 月 12 日朝刊以降)

なお、この研究は、文部科学省 科学研究費補助金「特別推進研究」(大阪大学代表研究者：浅田 稔 教授)、および、文部科学省「革新的イノベーション創出プログラム (COI STREAM)」(サテライト研究リーダー：三邊義雄教授)の一環であり、金沢大学子どものこころの発達研究センター の長谷川千秋博士研究員と菊知 充教授らが行った研究の成果です。

## ※1 自閉症スペクトラム障害

自閉症スペクトラム障害とは、対人関係やコミュニケーションの発達障害が主な症状であり、自閉症、アスペルガー症候群、特定不能の広汎性発達障害などが含まれる障害です。有病率は1%前後という高さで、幼少期には明らかになる障害です。この障害の特徴を早期から理解しておくことが重要であるため、最近では、親への早期の介入が重要視されつつあります。

## ※2 共感指数

共感指数 (Empathy Quotient) とは、英国の心理学者 Simon Baron-Cohen が開発した質問紙で、回答者の心理的状态における共感性のレベルを評価することができます。

『他人の立場に立って考えることができる』、『他人の気持ちを直感的に理解することができる』、『人を世話することはとても楽しい』などの60項目から構成される質問紙です。

### 【掲載論文】

著者： Chiaki Hasegawa, Mitsuru Kikuchi, Yuko Yoshimura, Hirotooshi Hiraishi, Toshio Munesue, Natsumi Takesaki, Haruhiro Higashida, Oi Manabu, Yoshio Minabe, Minoru Asada (長谷川 千秋, 菊知 充, 吉村 優子, 平石 博敏, 棟居 俊夫, 竹崎 奈津美, 東田 陽博, 大井 学, 三邊 義雄, 浅田 稔)

タイトル：Title: Changes in autistic trait indicators in parents and their children with ASD: a preliminary longitudinal study

(自閉症幼児の社会性の変化と両親の性格変化についての追跡調査)

掲載誌：Psychiatry Research (米国科学誌)

### 【研究内容に関する問い合わせ】

金沢大学子どものこころの発達研究センター 教授 菊知 充  
TEL: 090-9447-3575

※業務の都合上、下記の時間帯にお電話ください  
平成27年6月11日 午後0時～午後5時

### 【広報に関する問い合わせ】

金沢大学総務部広報室広報係 本庄 淑子  
TEL: 076-264-5024

E-mail: koho@adm.kanazawa-u.ac.jp

金沢大学医薬保健系事務部総務課医学総務係 萬道 奈央子  
TEL: 076-265-2109

E-mail: t-isomu@adm.kanazawa-u.ac.jp

